

# 門前町に生きる

— 過去・現在・未来 —

市では、成田山門前町の歩み・移り変わりなどをまとめるために、歴史的資料の収集や年中行事・習慣・信仰など、さまざまな事柄について聞き取り調査を行う「成田山門前町研究事業」を実施しています。調査を行っているのは、慶應義塾大学の鈴木正宗教授を中心としたプロジェクトチームです。この事業の成果をシリーズでお知らせします。

## 第1回 門前町研究事始め

きっかけは「記憶している昔の門前町のことをしっかり記録してください。今残さないと、昔の豊かだったころの門前町の記憶は永遠になくなってしまいます」という古老の言葉でした。

成田山門前町研究事業は、門前町の暮らしや社会、生活の変遷、個人の体験など、生き生きとした生活やその姿を、主に聞き取り調査という手法で記録することです。

これまで刊行されたさまざまな資料を最大限に活用しながら、文献や史料に表れにくい事柄を詳細な聞き取り調査により記録していきます。そのために、成田山新勝寺や町内に伝わる



60年前の薬師堂前(県文書館所蔵)



現在の薬師堂前

祭り・年中行事にも積極的に参加し、地域社会や生活の移り変わりなど門前町の歴史を記録します。

成田空港の開港後30数年が経過し、国際観光都市として市は大きく発展し、門前町の周辺では大型ショッピングセンターの進出、表参道の再開発など、時代の変化に伴い門前町がどのように変わってきたかをきちんと検証することと、成田への関心を高める一助となり、観光や将来のまちづくりへの活用・貢献できることなども目指しています。どうぞご期待ください。

さて、成田に門前町が形成されたのはいつごろからでしょうか。元禄14(1701)年、成田村には旅籠屋<sup>はたごや</sup>は1軒もなく普通の農村でした。門前町へと移り変わるのは、2年後の元禄16(1703)年に成田山新勝寺が江戸出開帳を行い、江戸の庶民を成田に誘致してからのことです。

出開帳の際に歌舞伎の市川団十郎が上演した成田山の靈験記が大人気となり、商売目当ての流入者も増え、江戸時代中頃には長野県の善光寺や香川県の金刀比羅宮<sup>ことひらくぐう</sup>と並ぶ門前町が形成されたと考えられています。

天保14(1843)年の史料には、旅籠屋は32軒・菓子屋22軒・居酒屋20軒のほかに、さまざまな商売をする家を見ることができます。また、成田山新勝寺の日記には、台町・仲町・本町・田町の4町の地名が見られます。江戸時代末期には台町から横町(幸町)が分かれ、台町は上町に、明治時代になって本町から砂田(東町)が分離しました。さらに明治22(1889)年、成田町ができた当時はほとんどが山林だった場所に、明治30(1897)年に成田鉄道(JR)の成田駅が開業、大正15(1926)年に京成電気軌道(京成電鉄)の成田花咲町駅(仮設駅)が設置され、商業化が進み、現在の門前町は上町・仲町・本町・田町・幸町・東町・花崎町の7カ町となりました。

### 情報をお寄せください

「昔はこんな行事や習慣があった」「タンスの中に眠ったままの資料や古い写真がある」など、情報の提供をお願いします。  
※くわしくは視聴覚サービスセンター(☎27-2533)へ。

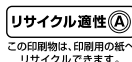
## 編集後記

学校が夏休みの期間中は、スポーツの大会が真っ盛り。市内の子どもたちもさまざまな競技で活躍しています。市体育館では、今月10日までインターハイの柔道と少林寺拳法の競技が行われました。将来の日本を背負って立つ若きホープたちが、日ごろ鍛えた技を出して熱戦を繰り広げる姿を目の当たりにしました。季節が進むとスポーツの秋。10月には3回目となる成田スポーツフェスティバルが開かれます。皆さんも参加しませんか。

平成26年8月15日号 No.1273

成田市のホームページ

<http://www.city.narita.chiba.jp>



広報なりたは、グリーン購入法に基づく基本方針の判断基準を満たす用紙、誰にでも読みやすいUD(ユニバーサルデザイン)フォントを使用しています。